地方自治ここにあり　首長インタビュー

高野山開創1200年を前に 歴史と景観を活かし、「共助」のまちづくりをめざして

高野町長　木瀬武治

木瀬武治高野町長

高野山は、弘法大師が開創してから再来年で1200年を迎えます。真言宗総本山金剛峯寺を中心とする山岳宗教都市高野町も近年は参拝・観光客の形態が変化し、山内はじめ町全体で人口動態が変わりつつあります。これからのまちづくりをどのように進めるのか、高野町の木瀬武治町長にお聞きしました。聞き手は本研究所の鈴木裕範理事長です。

開創1200年へ、進む環境整備

鈴木：2014年が世界遺産登録10年、翌15年が開創1200年ということで、高野山が国内外の注目を集める、2年間になると思います。高野町にとってこれからの発展を考える上でも、重要な年になるのではないでしょうか。

町長：あと1年余りで、お大師さんが高野山を開創されて1200年、そんな歴史と文化があるこの町です。行政としてはいろんな環境整備を整えていかなければならないと考え、駐車場の整備、歩道の整備、電線の地中化等々に取り組んでおります。

しかし、やはり基本は、おもてなしの心です。おもてなしと言いましても、ただ、サービスを提供するということではなしに、参拝、観光に来られた方々と共に楽しむ、会話を楽しむ、で、いろんな交流を楽しむ、自分らも来られた方々と一緒に楽しむというおもてなしを、考えてます、その辺のことを職員、住民の方々に常日頃投げかけておるわけなんです。

鈴木：高野町は、宗教都市という独特な町ですね。

町長：そうですね。高野山一円境内地が高野町です。

この町役場も金剛峯寺の借地、また山内の民家や商家はみな、土地を借りて生活している、言われるように独特ですね。

金剛峯寺さんも内局が何年かに一遍、変わられますけども、行政に対してはいろんな形で協力体制をとっていただいてますし、行政としても金剛峯寺に協力させていただくという、ええ関係は構築はされてます。

鈴木：開創1200年は、宗教環境都市を具体化していく、そういう年になるということになりますか。

町長：はい。金剛峯寺、行政、町民一体となった形の中で迎える体制をとっていきます。そして、行事がすんだ後も、環境整備を整えていく方向性を今、見いだしております。

鈴木：どのようなことが、計画されていますか。

町長：大門から中の橋につづき、いま千手院から中の橋間の電線地中化計画を3

わかやま住民と自治
発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市湊通丁南1丁目1-3　名城ビル3F
TEL･FAX 073-425-6459
jichiken@crux.ocn.ne.jp　2013年11月号
2013年10月25日発行　第253号　（月300円）

目　次

地方自治ここにあり　首長インタビュー
高野町長　木瀬　武治 …… 1
フォーラム・和歌浦湾をもう一度市民の宝に②
豊かな資源を活かし文化を伝えくらしを元気にするまちに …… 5
織田秀信と真田幸村②　堂本　育司 …… 8

年計画で進めておりまして、今年が最終年度ということで、１２００年開創の前年に完成ということで工事が進んでおります。

鈴木：町並み景観の保全と活用は重要な課題です。

町長：町は景観条例を平成21年に制定をいたしました。で、各商店、また民家等々改修するときには、条例に沿った形で協力をし、再建をしていただいており、町としても、景観条例に則した建物に関しては、助成を出しましょうということで、

景観条例の助成による改修店舗

最高２００万の助成を出させてもらったわけなんです。

鈴木：財源の問題があるかと思いますが、毎年、何件ぐらいありますか。

町長：環境整備基金というのが別個にあり、これを使って運用をさせていただいております。年平均３件ぐらいの申請ですね。潤沢とは言いませんけども、年度年度で行う事業に関しては、件数切るような制約をせずに、やってます。

鈴木：高野町は、景観基本計画を策定している、和歌山県で２つだけの町のひとつです。寺院景観と文化をどう守っていくのか。今後の保存・活用をどうするのか、注目されています。

町長：平成21年に景観条例を設定したときにも、いろんな意見もありました。反対ももちろんあったわけです。そのなかで、町づくりは、やっぱり行政が主体となって住民も協力して進めましょうという形で、景観条例は制定されたわけです。ひとつの方向性を見いだして、住民自体もそれに即した形で、高野町らしい町づくりを進めていこうという形でなったわけで、これからも住民、行政一体となった町づくりを進めていかなければならないと思います。

大門から中の橋まで県が主体となって、通過車両を通す４キロ強の環状道路ができますが、それにともない周辺の広葉樹林化も推し進めていきたい。大門近辺には２００台強の駐車場ができるわけですが、近辺も広葉樹林化によって混合的な、調和のある自然景観にしたいと考えております。

鈴木：山内は、八葉の峰と呼ばれる山に囲まれてあります、自然景観を大事にした、人が住む町づくりですね。

町長：そうです。

観光客に変化。若い女性、家族、フランス人が増加

鈴木：ところで、高野町も、政治、社会経済の大きな変化、グローバル化のなかにあります。聖地高野山を訪れる人は変わってきていますか。

町長：来訪者の信仰心が、かなり薄らいできてるのは事実ですね。

鈴木：年間、観光客がいま―。

町長：１３０万弱。やっぱり全体的には、高野山自体への信仰、参拝に来られる方より、観光に来られる方がかなり多くなってきております。現代人の宗教観の変化があると思います。そんな中で、信仰の地であることをいかに理解して、また来ていただくか。それには行政の力もありますし、金剛峯寺の力もあろうと思います、各寺院の接客の仕方もあろうと思います。もちろん商売人も含めてです、金剛峯寺、高野山というのはこういう地ですと、来られた方に丁寧に説明をしてお接待をし、再度来ていただくような形をとっていかなければならないのではないかと思います。

外国人の方も、世界遺産に登録されて、また、ミシュランの三つ星に登録をされたこともあって、欧米の方々を中心に年々増えてきております。彼ら彼女が来てくれた場合には、２泊３泊というような、長期的な形で滞在をしていただいております。口コミで、年々増えてきとるわけなんです。来ていただいた外国人が、町中を常に散策をして、歩いて楽しい周遊をする、歩いて楽しい周遊型観光に、３年ほど前から、取り組み始めております。

山内を歩く外国人観光客

鈴木：外国人観光客はどれくらい来てるんでしょう。

町長：去年で４万程やったかな、震災後、一遍に落ちたんですけども、以前は６万前後だったと思います。

鈴木：主にヨーロッパですか。

町長：そうですね。ヨーロッパ、フランスが多いですね。

鈴木：フランスの人たちを惹きつける、高野山の魅力は、どんなところにあるのでしょう。

町長：町全体に神社仏閣があり、全体的なイメージとして、京都、奈良にはない、聖地というような感じで受け止めてると聞いてます。

鈴木：町がそのまま寺院景観でコンパクトにまとまっていて、歩いて回れるのが高野山の魅力ですね。フランス人は観光の楽しみ方を知っている人たちといわれています、観光のこれからを考える、興味深い傾向ですね。若い世代はどうなのでしょう。

町長：そうですね、昔でしたらかなり年配の方々の団体が観光バスで来られて、奥の院に参拝して、で、各お土産屋さんへ行って、しっかりお土産を買っていくってのが、ひとつのパターンだったんですが、今はお子さんを連れた家族連れとか、女の人の若い層が、極端に、この2、3年で増えてきたように感じます。

鈴木：家族連れに若い女性、最近のパワースポットとしての関心もあるかもしれませんね。開創1200年は、そういう意味でも、若い世代や女性の皆さんに、関心をもってもらう機会とする必要があるかもしれませんね。

町長：そうですね。ひとつの転機になると思います。それを契機にこれから行政として取り組む、ひとつの取っかかりにしていかなければならないと思います。

林業再生、バイオマスに可能性か

鈴木：高野町の財政、町経済を支えてるのは、いま観光産業ですからー。

町長：はい。

鈴木：ところで、雇用は三次産業に傾いているわけですが、産業構造とくに林業の再生をどのようにするのか。

町長：高野山を除いた18の在所は、林（業）がひとつの基幹産業なわけです。林業の衰退・再生については、いろんな形で町単独でも助成をさせていただきがんばっとるわけなんですが、今の市況で生産して販売するのは、経費がかかってとてもやっていけるような状況ではない。そこで去年、橋本、九度山、高野、森林組合、3森林組合が統合して、森林こうやという形になり、そこが中心になって、高野の林の部分を担っとるわけなんですけども、それもなかなか、こちらが意図するような方向、展開が目に見えてこないのが現状なんです。けれども、これからも力強く、もっていくような展開を考えていかなければならないと思ってます。

農の部分では、専業農家も何軒かあります。で、地産地消、地産他消っていうことで今、やま里市っていうのを去年から展開をしとるわけなんです。週1日、高野の野菜を中心に売ってる商店が2軒ありますので、地元の産品をそちらの方に持って来ていただき、地元の人、観光、参拝に来られた方々に買っていただく、そういう展開も進めてます。

鈴木：高野町の重要な産業は、ひとつは観光、もうひとつが林業です。

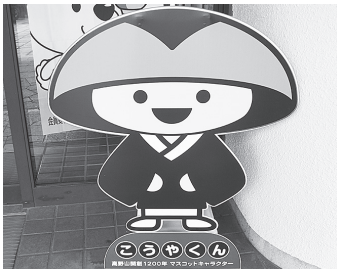
町長：ただ、建造物云々だけに材を提供しておるんであれば、市場価格を考えた場合、採算性が合わないということで、バイオマス利用、火力発電を含めた中で、今、事業展開の計画をしております。

鈴木：可能性は、どうですか。

町長：先進地もかなり視察に行かさせていただきました。バイオマスに関しましては、ペレットって方向性も考えとるわけなんですけども、ここは、冬になったらかなり気温も下がってきて雪も降るとこで、宿坊が52か所があるんですけども、そこも、今現在、化石燃料を使っとるわけです。その辺のところの方向転換も見いだしていければ、十分、採算ラインが合うような形になるんではないかと思います。それをするにしてもちろん、住民一体、宿坊も含めた中で、協力をしてもらわなければなかなか方向は見いだしていけることではないんですけどもね。

鈴木：高野町も林野面積が90パーセントを超えております。森林のもつ多面的な機能を活用していく、林業再生ですね。

町長：はい。



高野山開創1200年マスコットキャラクター「こうやくん」

高野町庁舎

山をおりる若い世代 住宅補助政策に期待

鈴木：ところで、高野町も人口が減っています。

町長：人口減に関しては取り組みは非常に難しいわけなんです。ここで、高野山で人口は２７００人ほど、ほか山間部に９００ぐらいで今、３６００切れた状態なんです。富貴、筒香地区に関しては、昭和32年に合併したときには３０００人からおったわけですが、今、５５０人ほどです。高齢化率は65パーセント。山間部はほんまにもう限界集落を通り越したような地域もあり、あと2、3年したらなくなるような地域もあります。

　原因は、若手の世代が、住居を橋本近辺にもっていかれる。なぜもっていかれるかというと、やっぱり利便性が非常に多いと思います。その数が５００人以上あるわけです。生産人口である、若い世代が下に住居を構えて高野に仕事に来ると。女の人の、やっぱり力が強いんやな、どうしても利便性を追求するんで。彼らが高野に住み着いてくれたらそれこそ１５００人から一遍に人口増えるんですけどもね。役場の職員自体、今、１３１人いてるんやけども、50人近い人が下から通とるような状況なんです。その世代っていうのは30代が中心ですね。

鈴木：なるほど。

町長：金剛峯寺自体も役場と同じぐらいの職員がおるわけなんですけども、金剛峯寺はまだそれ以上に半分からの職員が紀ノ川筋から、通うような状況でね。

　人口対策は、これまでいろんな定住政策、子育て支援的な政策、中学生までの医療費無料化っていうような政策を打ってきたし、今年になってからは、給食費、中学校までの無償化とかも実施し、高野に住居、新築を建てたら２００万の助成を出すとか、リフォームするんであれば助成金を出しますという施策を打ってきとるわけなんです。

鈴木：その住宅建築支援の補助制度を教えてください。

町長：新築補助は、今年から始めて1件、制度の利用申請、出てますね。中古物件に関して80万の助成をやはりしたんですが、それが2件あります。住宅のリフォームはこの4月からで50件超えてるんかな。最高限度が20万です。この8月で48件超えるため、もう50は超えてますね。当初予算は１０００万組んであったんやけども、利用がかなり多いんで、この9月でまた１０００万組んだんですわ。人気あるの、これは。その20万の10分の1を高野町の商品券にしてあるさかいにね、工も商もっていう形で、商売人も喜んでます。なんせ、若い世代が下に住居を構えるっていう、そういう方向になってきてますね。

鈴木：いろんな施策を講じているけれども、なかなか効果が表れてこない。見方を変えると、女性が魅力を感じる、そういう町づくりが求められているともいえますね。

　人づくり、人材養成についてはどのようにお考えでしょうか。

共助のまちを目指して

町長：高野町商工会青年部が中心になって、いろんなイベントの関係も行っていただいております。ほかに高野町青少年団体連絡協議会や、お寺が入ってる会といろいろあり、4月からは、若手の世代が中心になってこれからの町づくりを考えていこかという、そういう次世代町づくり会っていうのが自発的に発足をされて、役場の職員も会に出させているんです。そういう人たちも含めた中で、こちらがいろんな提案をして、全体としての町づくりを、若手含めた中で町民一体となって、つくっていかなければならないと思います。

鈴木：官民共同的な町づくり組織が育ちつつあると、いうことですね。

　最後の質問ですが、町長は、今地方自治に何が求められている、とお考えでしょうか。

町長：やっぱり地方自治っていうのは住民主体になってやっていかなければならないと思います。で、どこまで公助が入るか、自助を促すような公助でなければならないと思います。最終的には共助っていう形が一番ベストだと思うんです。

鈴木：共助の仕組みをつくりあげていくのは、大事かと思います。町政担当への、木瀬町長の強い決意、意欲的なお考えを聞かせていただきました。今日はありがとうございました。

町長：こちらこそ、ありがとうございました。